

# 令和四年度 入学試験（一般 第一回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の問【1】～【6】に答えなさい。

勤めをやめたのが昭和四十六年の秋だったから、丸十五年が過ぎたことになる。学校を出て就職するまでが二十四年、会社づとめが十三年、退職してからが十五年、その合計が五十二年で現在の私の齢である。こうして見ても、人間というのは、□(a) 独り立ちするまでに恐ろしく時間のかかる動物であることがわかる。

物を書き出してからも、私はなお十年近く勤めていた。民放のテレビ局であったが、大体、やめても食えるような状態ではなかったのだから、やめるわけには行かなかつたのだと言うほうが正直である。もともとが無理な二足わらじで、周囲にも少なからず迷惑をかけたが、それを気に□(b) いる暇もなかつた。今頃になつて、かつての職場の先輩や同僚が、「いつもお前のものを読んでるよ」などと嬉しいことを言ってくれるのは、彼らもやつと当時の私のけしからぬ勤めぶりを許してくれたのではないかと思う。

正式に退社が決まつて人事部に出頭すると、課長が苦笑いして、「ほんとはお前みたいなのも一匹ぐらゐ飼つて置いてもいいんだけどな」と言ったものである。その台詞<sup>せりふ</sup>の後半をこちらで補えば、「でも今はもう昔みたいに行かぬからな、だから、引き止めないよ」であつたろう。彼は、私がその十三年前に入社試験を受けた時にも、同じ人事部にて、何くれと親切にわれわれ学生の世話をやいてくれた、話せる先輩の一人であつた。今や課長になつてはいる彼の言葉は、私にはよくわかつた。民間放送局もすでに草創期の混乱とも狂躁とも言える空氣からは遠く、万事に合理的に管理された現代式の企業になりつつあつた。

もつとも、世の中の景気の動向だの何だのいうことは、さっぱり私の眼中にはなかつた。後になつて、もう少し頑張つていればよかつたという気がしたこともあれば、逆に人から「いい時にやめたよ」と言われたこともある。依頼退職ということで、なにがしかの退職金を手にしたが、その金額に「へえ、そんなもんかね」と驚いた顔をした人もいた。それで私自身も、そんなに少額なのかと思いつくくらいである。

その年はじきに暮れた。明日の生活の心配よりも、自由の身になつたうれしさのほうが勝る越年であつたにちがいない。そうして迎えた昭和四十七年がどういう年であつたかと、改めて年表を繰つてみると、連合赤軍浅間山荘事件、沖縄施政権返還、佐藤首相退陣、田中角栄総裁選出、「日本列島改造論」等々の活字が目につき、片や横井庄一元軍曹<sup>A</sup>ガアム島で発見、山陽新幹線の新大阪・岡山間開業、川端康成自殺、中国からのパンダ初公開などとある。作家では川端康成の半年前に志賀直哉が没していた。

ぼんやり印象に残っているのは、それから間もなくして「石油」だの「OPEC」だのいう言葉をいやに耳や目にするようになつたことで、「いい時にやめた」というのは、そんな情勢をあとから占つたものであろう。出版界について言えば、その年は□(A) の私ですら何やかや続けて三冊も本が出たくらいである。好況も風前のともしびで、私などは危うくそのおこぼれにありついた感じであつた。

ところで、退社一年後のその暮れのことである。大晦日ではなかつたが、御用納めも済んで、世間もようやくというか、またぞろというか、型のことき年越しのムードに包まれた二十九日か三十日の夕刻であつた。私は地元の魚を手土産に、御無沙汰していた大学時代の旧師を小田急沿線に見舞い、逆に「君のために取つて置いたよ」というスコッチを一本頂戴し、「よいお年を」と告げ合つて辞去した。そのまま大人しく家に帰るべきであつたかもしねれない。

ところが、まだ宵の口ではあるし、人恋しくもあるし、手には酒の瓶もあるしで、ちょいと足を伸ばしてもう一軒、そこからさして遠くない、これは文筆の先輩というべき人の所に寄つて行こうと、欲張つた考えを起こした。街角の公衆電話から、突然だがお邪魔したい□(B) を伝えると、先方もすっかり仕事からも来客からも解放された気分と見え、「どうぞ、どうぞ」という返事であつた。電話口に出たのは奥さんであつた。

行くと、先輩その人が出てきて応接間に招じ入れてくれたが、主<sup>あるじ</sup>は先刻からそこのソファーに寝転がつてレコードを聞いていたらしい。それはフルトベングラー指揮するベートーベンの「エロイカ」であつた。それで、主はまた同じ恰好で、客の私も寛<sup>くつろ</sup>がせてもらつて、合間合間には雑談を交えながら、名演の最後まで耳傾けることになつ

た。私はこの時に気がついてもよかったです。外出中でもないらしい奥さんが、どうしてか一向に顔を見せない。別に様子をうかがうつもりはないが、なんだかいつもと違って家の中が妙にしんとしている。

やがてレコードが終わった。すると、たぶん二階からであろう、すうっと奥さんが現れて、「大事なお話はもう終わりましたか」と、□(c) 声をかけた。ほつほつお酒の用意をしましょうというみたいに。言うまでもなく、

呑んべえの私は毎度そんなふうに御馳走になっていたのである。そしてこの晩も夜半過ぎまで、年忘れの数刻を楽しませてもらったことも言うまでもない。

帰りの電車の中で、私はようやく思い当たった。最初奥さんが席を外していたわけも、主がレコードをかけたりして、私が話を切り出しやすいようにして待っていてくれたわけも。時ならぬ時に他家に押しかけた私の非常識もあるが、どうやらそこには、ちょっととした誤解があつたようである。ただ、その誤解は美談の一種とも言えるものではあつたが。

なるほど、借金の相談と取り違えられても仕方がないほどに、筆一本になつた私の暮らしは、傍目にも苦しげだったのであろう。

(阿部昭『歳末の訪問者』)

【1】 空欄②①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1 2】

- |   |   |                         |
|---|---|-------------------------|
| 1 | ⑦ | ①力作                     |
| 2 | ④ | ①趣 <small>おもむき</small>  |
| 3 | ② | ②多作                     |
| 4 | ③ | ③駄作 <small>ださく</small>  |
| 5 | ④ | ④寡作 <small>かさく</small>  |
|   | ⑤ | ⑤凡作 <small>ぼんざく</small> |

【2】 傍線部「独り立ち」の前に置く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【3】 ①かしこくも      ②ともかくも      ③はかなくも      ④けなげにも      ⑤かなしくも

【4】 傍線部「声をかけた」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【5】 ①病んで      ②込めて      ③倦んで      ④置いて      ⑤揉んで

【6】 傍線部「気に」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【7】 ①それとなく      ②ひかえめに      ③さりげなく      ④しんみりと      ⑤なにげなく

【8】 二重傍線部④の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号を記入しなさい。

- 【9】 ①『山の音』      ②『雪国』      ③『夜明け前』      ④『千羽鶴』      ⑤『伊豆の踊子』

【解答欄は問6】

【10】 筆者はどうして、波線部のように記したのか。その理由としてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7】

- ①あれこれ気を遣わせてしまい、申し訳ないと心から詫びる気持ちになつたので。

②来年こそ世間に認められる仕事をして、皆さん的心遣いに応えなければと、改めて決意したので。

③とかく心が沈みがちだったが、せめて外見だけでも颯爽としていたければと、痛感したので。

④負い目を感じさせないように気を配る皆さんに囲まれ、感謝と幸せを改めて噛みしめられたので。

⑤年の瀬に非常識ではと迷いながらも、思い切って訪ねてみてやはりよかつた、と思えたので。

【11】

二次の問【7】～【11】のことわざの意味として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【7】  
「文は人なり」【解答欄は問8】

- ①文章はその人をそのまま写し出すので、考えと異なることを書いてはならない。  
②文章を見れば、それを書いた人の全てが、明らかになる。  
③文章が上手くなるためには、自分自身に対する観察が大切だ。  
④文章にはそれぞれ特徴があるので、誰が書いたかすぐに分かってしまう。  
⑤文章は生まれつき備わったものなので、努力しても上手くはならない。

【8】  
「過ぎたるはなお及ばざるが如し」【解答欄は問9】

- ①何かに取り組む時、これで十分、ということはない。  
②作業中、全体のどのあたりを進んでいるのか、注意を怠らないこと。  
③物事には全て順合いというものがあり、その見極めが大切だ。  
④かなりやり終えたと思っても、実際にはまだ不十分なことが多い。  
⑤物事を処理する時は、少しづつ、着実に進めることが大切だ。

【9】  
「禍福は糾える縄の如し」【解答欄は問10】

- ①縄のようにより合わされた幸せや不幸は、決してほどくことができない。  
②幸不幸はより合わされて順番にやってくるので、ほぼ予測できる。  
③人生は、縄をなうように、幸不幸のバランスをうまくしていく必要がある。  
④幸せや不幸は、縄のようにより合わされて、流れてゆくものだ。  
⑤人の幸不幸は、最終的には、その人の努力次第だ。

【10】  
「青は藍より出でて藍より青し」【解答欄は問11】

- ①青の根底には藍があるということを、どんな時にも忘れてはならない。  
②自分がどんな資質を持って生まれてきたのか、まず確かめるべきだ。  
③青が藍から生まれるように、人には生来備わった資質というものがある。  
④よほどのことがない限り、青が藍より青くなることに、疑いはない。  
⑤人はその努力によって、天性の資質を凌ぐものを得ることができる。

【11】  
「頂門の一針」【解答欄は問12】

- ①頭に直接針を刺すような、決定的な戒め。  
②どんなに過ちを犯しても、頭に針を刺すようなことは、避けるべきだ。  
③危険を伴う戒めなので、慎重にし過ぎても、し過ぎることはない。  
④頭に針を刺されるようなことには、日頃から注意しなければならない。  
⑤頭に直接針を刺されたような、致命的な痛手。

12

11

10

10

9

9

8

8

7

三次の問【12】～【16】の作品の作者として正しい人物を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【12】『放浪記』【解答欄は問【13】】

- ①吉屋信子  
②平林たい子  
③林美美子  
④円地文子  
⑤宇野千代

【13】『泣いた赤鬼』【解答欄は問【14】】

- ①新美南吉  
②浜田廣介  
③小川未明  
④松谷みよ子  
⑤坪田譲治

【14】『沈黙』【解答欄は問【15】】

- ①吉行淳之介  
②野坂昭如  
③瀧澤龍彦  
④遠藤周作  
⑤井上ひさし

【15】『飛ぶ教室』【解答欄は問【16】】

- ①エーリヒ・ケストナー  
②モーリス・センダック  
③ジーン・ジオン  
④モーリス・メーテルリンク  
⑤エリック・カール

【16】『嵐が丘』【解答欄は問【17】】

- ①アガサ・クリスティ  
②ルーシー・モード・モンゴメリ  
③ルイーザ・メイ・オルコット  
④ヴァージニア・ウルフ  
⑤エミリー・ブロンテ

【17】

四 次の文章を読んで、後の問【17】～【21】に答えなさい。

一日はどうして二十四時間しかないのだろう。

人間は誰でも一度や二度はこう考えるものでしようが、私も二十代には、かなり真剣にこう考えたものです。

$$24 - 8 = 16$$

一日八時間は寝ないと体に毒だといわれて、一応、こんな引き算をしてみるのですが、その八を七にし、六にし、起きている時間を増やしました。

読みたい本。

始めたい習いごと。

見たい映画や芝居。

行ってみたい旅。

いつも、それらのスケジュール（実現不可能な夢のプランです）が、時計のセコンドのように私を追いかけて、責め立てていました。一日の終りには、いつも口惜しさと悔恨がありました。

「また一日を無駄にしてしまった」

本当に眠るのがモツタイないと思ったものです。

今から考えると、なぜあんなに焦っていたのかと思います。あの頃の私は、いつも腕時計を気にしていました。十分、二十分のバスの中の時間を惜しみ、文庫本をバッグに入れては読みふけりました。待ち合せの時間に相手が遅れると、時間を無駄にしたように思えて、女の子にしてはきつい言葉でその人を

【P】ました。

若かったんだなと思います。

二十代の私は、時計の奴隸どれいでした。

カレンダーにおびえていました。

一日は二十四時間。

一ヶ月は三十日。

一年は十二ヶ月。

時と月日の単位が、いつも私をおどかしていました。

この一瞬は、二度と再び訪れないのだぞ。

かけがえのない時を無駄にしてしまったのだぞ。取りかえしのつかないことをしてしまったのだぞ。

天の一角から、いや時計の裏づタやカレンダーのうしろから、と言った方が適切かも知れません、こういう声が絶えず聞えていました。

しかし、現実はといえば、暮してゆくためにつとめた出版社での雑用はますます多くなり、お酒を飲んだりスキーを楽しむことを覚えたりで、遊ぶことも忙しく、気持のあせりと夢が大きくなつてゆくのに比例して、時はいつもムイに過ぎてゆくように思われました。

毎日、何かに追われて、爪をかみ、地団駄を踏んで暮していた時が、私にありました。

その頃から、私は内職にラジオやテレビの原稿を書きはじめました。（これも、やむにやまれぬ芸術的欲求などという高邁なものではなく、スキーにゆきたい、その資金のため、というのですからお恥かしい限りですが）「お金のため」が先にあって、「いいものを書きたい」という欲はあとになり、それでもなんとか二十年近い年月を、この職ですごしてきたことになります。

この頃になつて、格別の才能も欲もなかつた私が、物を書いてどうにか暮してゆける原点——もとのところはなんだろうと考えてみると、この二十代のあの地団駄にあるのではないかと思うのです。

あの頃、私なりに本も読みましたし、人に物も習いました。しかし実ったのはその部分ではなく、焦り、绝望し、自分に腹を立て、やり場のないなにかを、さてどこへぶつけていいか判らず爪をかんでいた、あのわけのわか

らない \* ではないかと思うのです。

若い時から能率的というのでしょうか、時間の使い方が実にうまい人を知っています。二時間ずつ、ピアノ、英語、フランス語、お茶、お花、と、ひと通りの稽古ごとをみんなマスターし、外国へも留学して、出来ないものはないという \*\* の見本のような人です。

みごとなものだなと思いますが、私はどうもこの人についてゆけないところがあります。  
例えば、もめごとを起している夫婦がいます。この人は、すぐ、「別れるべきよ。別れて新しい人生を踏み出しなさい」と断言します。

私は、理屈はそうだけれど、人間なんてそう簡単に割り切れるものではない。のたうち廻りながらでも、もうすこし考えてみたら、という意見で、いつもぶつかります。

彼女は私の書くものに対し、「ハツキリしない」とい、私は、彼女の生き方に、「正しいけれど ① が乏しいのではないか」と思ってしまいます。

お茶を「時間習い、時計が二時になつたから、すぐショパンが弾けるものでしようか。私は非能率的といわれても、お茶を習つた日はお茶だけにして、夜までその気分を大切にしたいと思う「たち」なのです。

いや、それよりも、「私は時間を合理的に使っているでしょ?」という、したり顔が——私は、ダメな人間ですから、きっと口惜しいんでしょうね——気に入らないのです。

時というものは、一秒一秒、時計のセコンドのようにせわしなく過ぎてゆくものであります。一生の単位で見れば大きな河の流れにも似て、ゆつたりと流れてゆくものもあるはずです。

三年五年を、無駄にすごしたとしても、六十年七十年の人生にとって、引っかき傷ほどにもなりません。

私は、どちらかといえば負け犬が好きです。  
人も大も、一度ぐらい相手に食いつかれ、負けたことのある方が、思いやりがあつて好きです。

時にして同じです。  
一時間単位、二時間単位で時間を使つたといつても、それはせいぜい、時計を有効に使つたということにすぎません。

人間は、時計を発明した瞬間から、能率的にはなりましたが、同時に「時計の奴隸」になり下がつたようにも思います。

時計は、絶対ではありません。  
人間のつくった ④ の約束です。

もつと大きな、「人生」「一生」という目に見えない大時計で、自分だけの時を計つてもいいのではないでしようか。  
若い時の、「ああ、今日一日、無駄にしてしまった」という絶望は、人生の大時計で計れば、ほんの一秒ほどの、⑤ ステキな時間です。

恐れと、① を知らず、得意になつて生きるより、それはずっとすばらしいことに思います。  
どんな毎日にも、生きている限り「無駄」はないと思います。「焦り」「後悔」も、人間の貴重な栄養です。いつの日かそれが、「無駄」にならず「こやし」になる日が、「あか」にならず「こく」になる日が、必ずあると思います。真剣に暮してさえいれば——です。

(向田邦子『時計なんか恐くない』)

【17】二重傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問1819】

- 18 (A) ①かいこん ②くいこん ③かいしゅん ④くこん ⑤かいしゅう  
19 (B) ①こうぐう ②たかまい ③たかぐう ④こうまい ⑤こうまん

【18】 空欄⑦～⑩に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問20～23】

- |    |   |       |       |       |       |       |
|----|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 20 | ⑦ | ①いさめ  | ②なじり  | ③さとし  | ④しかり  | ⑤いびり  |
| 21 | ⑧ | ①彩り   | ②奥行き  | ③味わい  | ④温もり  | ⑤華やぎ  |
| 22 | ⑨ | ①ひとつき | ②うつろい | ③まぼろし | ④うたかた | ⑤かりそめ |
| 23 | ⑩ | ①せつなさ | ②さみしさ | ③はかなさ | ④むなしさ | ⑤かなしさ |

【19】 傍線部⑨～⑪の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問24～26】

- |    |   |     |     |     |     |     |
|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 24 | ⑥ | ①勿台 | ②勿待 | ③勿体 | ④勿対 | ⑤勿代 |
| 25 | ⑦ | ①務為 | ②無意 | ③務位 | ④無為 | ⑤務意 |
| 26 | ⑧ | ①素敵 | ②須滴 | ③素摘 | ④須敵 | ⑤素適 |

- 【20】 空欄\*と\*～\*に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問27～28】
- |    |    |       |        |        |
|----|----|-------|--------|--------|
| 27 | *  | ①スタミナ | ②ダイナモ  | ③エネルギー |
|    | —  | ④マグマ  | ⑤パッション |        |
| 28 | ** | ①有言実行 | ②沈着冷静  | ③巧言令色  |
|    | —  | ④謹厳実直 | ⑤才色兼備  |        |

【21】 筆者は波線部で、読者にどんな思いを伝えたかったのか。筆者の思いを、五十字で述べなさい。

【解答欄は別紙問29】

【29】 記述解答用紙へ